



海老沼小だより

かしこく やさしく たくましく生き抜く子
笑顔と歌声あふれる学校 ～

平成29年11月30日

12月号

さいたま市立海老沼小学校

互いを認め合うということ、自分を好きになるということ

校長 森 裕子

11月は、予想していた以上に早く過ぎ、紅葉した葉が木枯らしに舞い落ちる季節となりました。2学期も、もう最後の月です。今、子ども達の生活はすっかり軌道に乗り、互いのことがよくわかり、友だちとの付き合いもより深まっています。そして、海老沼の子ども達は年度の初めの頃と変わらず、学校生活の様々な場面でエネルギーによくがんばっています。一方で、この時期だからこそ生じる子ども達の悩みもみえてきました。自分が思うようにことが進まないと感じたり、自分に自信がもてなくてやる気がなくなったり。また、他人が自分のことをどう思っているのか、自分も他人のことが気になり、人間関係になんとなく不安や不満を覚えている・・・私もかつて担任をしていて、2学期も半ばを過ぎるとそんな生徒の様子を感じるのが常でした。そんなとき、大事なのは「互いを認め合う」仲間関係です。それぞれの思いを十分に聞いて、相手のことを理解する糸口を示し、問題となっていることの解決策を一緒に探ります。そうして問題を乗り越えた時は、前よりももっと絆が深くなり、子ども達の内面も大きく成長しています。しかし時として、問題が解決するどころか大きくなることもあります。相手を攻撃し、傷つけることになったときです。どんな理由があるにせよ、「いじめ」や「差別」にもつながるそういう行為は、許せません。誰も他人を傷つけたり、傷つけられたりすべきではありません。「互いを認め合う」仲間づくりは、20年以上担任を務めた私の一番の信条でしたが、校長となった今も変わりません。

では、「互いを認め合う」とは、どういうことでしょうか。3つの要素があると私は考えます。①相手のよさを認め賞賛すること、②相手に対して思いやりの気持ちをもつこと、③相手が自分と違って否定しないこと、です。先日、海外の大物女性歌手がファンに向けて「自分が他人と違うからと言って、悲しまないで。自分に自信をもってしあわせに生きて」と語るのをテレビでみました。自分に自信がもてるかどうかは、自分の考え次第だとも言えますが、自分を認めてくれる周りの人がいてくれることも大きいのではないのでしょうか。10月から11月にかけて、高学年は大宮地区の駅伝大会に向け課外練習に励みました。大会数日前に開かれたスポーツ集会では、駅伝選手が前に出て、大会にかける意気込みを述べました。選手の顔は、日々練習に励んできた自信と誇りに満ち溢れ、輝いていました。それに向け、憧れと賞賛の思いをいっぱいにして、さらなる栄光を祈り熱いエールを送る在校生の姿もでした。一方で、課外練習に参加した人の中には、自分の思うようにいかない壁にぶつかったこともあったようです。「仲間の励ましがあつたから乗り越えられた」と後で感想に記されていました。さらには、「駅伝課外に参加しない」という選択もありました。他の人と違っていいのです。駅伝課外に参加せずとも選手にエールを送り、送られた側はそれに感謝する、それが互いに認め合うということです。「みんなちがって みんないい」金子 みすゞの詩の一節のように、自分とちがう他人を受け入れること、他人と違う自分に自信をもつこと、海老沼小の誰もがそうあって、一人ひとりが輝ける学校生活であることを願います。



スポーツ集会でエールを受ける選手たち

12月4日から10日は法務省が定める「人権週間」です。だれもが、人として当たり前にしあわせに生きる権利、それが「人権」です。本校でもこの機会に、人権教育の一層の推進を図って参ります。ご家庭におかれましても、何か気になることがありましたら遠慮なく学校へお知らせください。また、地域、保護者の皆様とも連携して進めて参りますので、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。